

ながの環境パートナーシップ会議  
平成22年度第6回 幹事会 会議記録

日 時 平成22年10月4日(月)18時10分から20時30分

場 所 会議室6(市役所第二庁舎4階)

出席幹事 6人

(弓場、高木、渡辺、中村、安藤、水野)

欠席幹事 1人

(金井)

会議内容

- 1 第15回長野市環境こどもサミットについて  
長野市環境こどもサミット実行委員会事務局から、サミットの環境体験コーナーへのP会議としての出展を依頼された。内容はCOP10の折り紙プロジェクト。信州環境フェアやふれあいまつりででの参加の実績があるため、依頼された。この件は、渡辺幹事を責任者として、出展することが承認された。(詳細は、**主な意見・質疑等参照**)
- 2 ながのカーボンオフセットプロジェクト事業提案・審査  
小山監事から提案され、弓場代表幹事から説明を受け、弓場代表を除く5名の幹事で審査を行い、承認された。
- 3 スキー場跡地の自然復元プロジェクトの予算案再検討について  
今年度は、10月から23年5月までの8か月分の6万円を支出することを承認。
- 4 ふれあいまつり出展報告  
出展状況は別添資料参照。ホームページにも後日掲載する。
- 5 旅費規程の見直しについて  
旅費規程の交通費や視察・研修の人数について、旅費の申請・報告書の書式について検討した。詳細は **主な意見・質疑等参照**。今回の検討事項を「申し合わせ事項」としてまとめ、次回の幹事会に提出する。
- 6 生ごみチーム視察旅行について  
視察目的、内容、旅費の支出について、申請どおり承認された。  
また、安藤幹事から環境政策課職員も視察に同行していただきたいというお話をいただき、後日検討して、地球温暖化対策室の係長が同行することになった。
- 7 アジェンダ21ながのについて  
まず、「アジェンダ21ながの」について会員がしっかり把握することが必要なため、その点をチームリーダーに伝えるとともに、新入会員については研修会を開催することになった。詳細は **主な意見・質疑等参照**。
- 8 公益法人化研究のプロジェクト立ち上げについて  
プロジェクトを立ち上げ、公益法人化を含めたP会議のあり方について考えていくことになった。メンバーは今のところ、弓場代表幹事、中村幹事、柳澤。
- 9 プロジェクトチーム活動報告  
トレイ・レジ、市民の森から報告があった。

## 10 新会員承認について

団体会員として信州大学工学部、個人会員として3名承認された。信大工学部環境ISO学生委員会は退会とし、工学部として登録、会費500円を工学部に請求する。個人会員3名は保険手続きを行い、チームリーダーに伝える。

## 11 その他

長野県循環型社会推進大会開催についてお知らせ。多くの方のご参加を。10月12日申し込み締め切り。

### 今後の日程等

幹事会

- (1) 日時・場所：11月2日(水)18:00～ 会議室16(市役所第二庁舎9階)
- (2) 内容：プロジェクトチームの活動状況報告、研修会開催ほか。

### お知らせ

平成22年11月27日(土)、パートナーシップ会議の研修会を開催します。対象は今年度の新会員とチームリーダーですが、会員はどなたでも参加可能です。「パートナーシップ会議って、どういう団体なの?」「どんなことを目指しているの?」「他にはどんなプロジェクトがあるの?」「私はパートナーシップ会議のこんなところを直してほしい!」などなど、「ながの環境パートナーシップ会議」のことを知りたい、聞きたいという会員の方、ぜひご参加ください!

### 主な意見・質疑等

#### 1 第15回長野市環境子どもサミットについて

- ・ 何回か折り紙はやったが、そのことについて、どのように捉えているか。  
信州環境フェアでは先生を招いてブースを出し、ふれあいまつりではボランティアの一人お願いして、その方に指導してもらって、折り紙コーナーを運営したが、メッセージを書くまでには至っていない。そのため、もしサミットでこのプロジェクトをやるなら、COP10の折り紙プロジェクトのやり方にそって、子どもたちと関わらなければならない。スタッフへそのことをきっちり伝え、やり方も決めておかないといけないと思う。(柳澤回答)  
折り紙を折ることは、集中するし折るという行為に思いをこめられることを実感した。折るものはどんなものでもいいが、折るだけでなく次のステップに行くなら、それなりのスタッフの配置やスペースも必要。
- ・ パートナーシップ会議として体験コーナーに出展することについては、どうか。  
特に反対なし、承認。
- ・ 企画の内容についてはどうやったら生物多様性につなげられるかもう一度検討するということで、担当はどうするか。  
準備段階では、サミット事務局小澤が担当の方と相談させていただくようになる。  
では、渡邊さんに担当していただいて、内部のスタッフは清泉の学生などをお願いしていく。

#### 2 ながのカーボンオフセットプロジェクト事業提案・審査

【弓場代表幹事から提案内容について説明】

- メンバーについて、提案書には2名のみだが、ここにセンター設置チームの武田さんも入る予定。
- ・ メンバーは、橋本(環境政策課温暖化対策室長)も入れてほしい。  
これから声をかけさせていただく。
  - ・ これは営利事業になるのか。仲介すると手数料がとれるかどうか。

もうけができればそうなる。もうける気はないが。継続してやると税務署収益事業になる。

参加する業者もただで出たくないから手数料をとということになるかも。

【審査を行い、50点満点中42点で合格、プロジェクトとして採択された。】

### 3 スキー場跡地の自然復元プロジェクトの予算案再検討について

- ・ パノラマホテルはどこ経営か。スキー場が無くなっても、経営できるのか。  
観光課所管で指定管理者は「聖山高原リゾート共同企業体」  
ホテルの利用は、夏は高原学校の場所になっていたと思う。
- ・ 跡地に実際に植えることができるかどうか問題。  
観光課から跡地利用の素案も住民自治協に来ていない状況なので、確定は出来ないが、観光課の素案と住民自治協とプロジェクトが考える案が自然復元の方に進めば、可能性はあるのでは。
- ・ 跡地を使う面積は、どのくらいなのか。  
ホテル南側の正面の斜面は草原で、それ以外の部分。すべてではない。まだ観光課でも案を出していないので、はっきりしない。
- ・ 圃場にどんぐりをまいて、何年かして苗木になったら植樹する気の長い話。しかし、圃場に6万もかかるのはいかがなものか。  
「市民の森」として整備していくのであれば、多少のお金がかかるのはあたりまえか。  
本当は、観光課でどうするか決まってから動き出せばいいのだろうが、プロジェクトでやるといえば、そうなる可能性もあるか。  
3アールでどのくらいの苗木が育てられるのか。  
前の幹事会で試算した。3万本くらい。  
子どもたちが拾ってきて育てるのなら意義がある。  
とても夢のある活動。ただ、1アール3万円というのが気にかかる。  
借地だけならかなりやすい。人件費としてみると高い。  
しかし、圃場にどんぐりをまくまでも消耗品の経費がかかりそうだ。3万个集めて植えるのもすごい手間。そこまでできるかどうか分からないが。  
とりあえず、今年やってみて、だめなら来年やり方を考えてまたやってみて、3年くらい様子を見たらどうか。  
このあとどうなったか、われわれも見に行かなくてはいけないと思う。  
もし1年目うまくいかなければ、苗木を寄付してもらおうとか、そういう方法も考えていけばいいと思う。
- ・ 苗木を植える場所の借地料について、長野市の市有林ということであれば借地料は必要ない。

### 4 ふれあいまつり出展報告

- ・ 環境のイベントでなく、「福祉」の分野でのイベントに出展できたのは良かった。
- ・ P会議のちらしは、信州環境フェアのときお金がなくてカラーで印刷できなかった。その余りを今回使った。今後、カラーで作成したい。

### 5 旅費規程の見直しについて

#### 【事務局から説明】

旅費規程により旅費は交通費・宿泊料及び会議旅費とし、旅行はあらかじめ幹事会の承認を得なければならないことになっている。

「旅行」というのがなにを指すのかははっきりしない。交通費について、学校版EMSから学校訪問の際の交通費を支出してほしいという話があるが、このような交通費も事前承認が必要かどうか。

事前承認と報告について、特に書式がなかったので、案として作成した。

事前承認のとき、すでに予算に計上してあるものを、どこまで確認するか。単なる視察の場合、旅行する人数は2人くらいでいいのではという話が前の幹事会であった。だが、チームメンバーみんなでみて、研修したいという場合、その必要性をどう判断するか。

運営費の支出について、特に明記されていない。もし交通費を事前承認必要とするなら、会計規程の「経費を資金前渡できる」の「経費」を交通費を除く経費とし、交通費は必ず事務局に連絡もらうようにしないと、支出してからの訂正は難しい。

- ・ まず、EMS の交通費を旅費に含めないということであれば、 については考えなくてもいいか

そのとおり。

学校訪問の交通費は通常は自家用車や市の車を使ったりするので、発生しない。ただ、自家用や市の車が使えないとき、学生が使う場合があるが、これは旅行に含めなくていいのではないかと個人的には思うが。

これはタクシーか。

大体タクシーか。バスもあるかもしれないが。バス路線がないところはタクシーになる。

今回のケースは、学校訪問当日に自家用車が使えず、松代から芹田小までタクシーを使ったということ。

レジチームでもいろいろな場所で活動しているが、何で来るにしても自費。本当は申請すればもらえるが、していない。

EMS チームも基本的には自家用車の場合は請求していない。これは例外的なこと。

それならば、あえて規程の第3条にのせないほうがいいのではないか。

では、第3条に、《この場合の「旅行」とは、視察旅行・研修旅行とする。》とだけ入れるか。

- ・ 旅行の人数については、申請してもらったときに判断すればいいか。

限られた予算であれば、ある程度人数とか決めておいたほうがいいか。

生ごみチームで11月に視察に行くが、これはメンバー全員で行くことになっている。ただ、今回は市のバスを使うので、高速代の3350円のみかかるのだが、そんな方法もある。9月の視察については、チームで報告会を開いて、みなさんに聞いてもらいたいと考えている。この報告会もメンバー全員でいったから、開催しようと考えたが、一人二人ではそうはならなかったと思う。

事前承認のときに、どのように報告をするかまで計画にもりこんで、幹事会で承認できればいい。

帰ってきて、仲間内で行ってききましたではなく、必ず報告会を開くというようにしたらいいのでは。

それもわかるが、やはり全員でいくことには抵抗がある。なので、事前承認のときに、その辺は判断すればいいのでは。パートナーシップ会議で公的なお金を使うのであれば、ある程度の制限があってもしょうがないと思う。だが、そのあたりは、やはり今後しっかり議論して、総会にはかるのがいいと思う。

予算の使い方についてはいづれ議論しなければいけないこと。第3条の「学校訪問の交通費は含めない」は入れず、視察・研修旅行は幹事会に申請がきた時点で判断することにし、来年度までに総会のことを含めて予算について議論することでよろしいか。

今年度、予算計上されていて、まだ行っていないところはあるか。

市民の森、太陽がまだ。

- ・ 視察・研修旅行と限定してもいいか。それにはまらないものもある。P 会議に講演会にきてほしいとかがあれば主催者から旅費がでなければ、規程で限定すると出せなくなる。

規程で、視察・研修旅行は幹事会の承認を必要とするか。

講演会に着て欲しいという依頼とかがあれば、かならず幹事会で話すようになるのでは。

普通の団体だと代表の出張命令で行く感じだが。

そういう場合、代表幹事の承認があれば行けるようにするか。

緊急の場合とかがあるか。

第7条は500円しかでない。

「事前承認を必要とする。ただし、緊急を要するときは代表幹事の判断で幹事会の承認にかえることが出来る。必ず報告する。」というのはどうか。

規程を変えずに、細則とか、解釈みたいので別にするのはどうか。規程はこのままで、旅行はこういうものを指して、交通費を含まないなど、整理さえしておけば。

旅費規程の運用について別につけておけば。

幹事会の申し合わせ事項としておいたらいかがか。

ではそのように。

このお話を受け、事務局で「旅費についての幹事会申し合わせ事項」として書類を作成し、次回の幹事会に提出し、幹事の皆さんに承認いただきます。

## 6 生ごみチーム視察旅行について

特になし。

## 7 アジェンダ21ながのについて

- ・ 見直しは必要だと思うが、スケジュール的にはどうか。  
環境基本計画が24年度に動きはじめるので、一緒に見直しするのは難しい。新しい基本計画が動き出した時点でアジェンダの見直しをはじめれば良いと思うが。

平行して見直しはしないということか。

「アジェンダ21ながの」の本には、アジェンダ策定までの経過がのっている。スケジュールなどは、よく協議しないとなんともいえない。

作業量もどのくらいになるか。P会議として見直すのか。市の計画となっているが。

今度の基本計画は5年計画。アジェンダは2050年まで見据えたもので作成している。目先のことににとらわれていない部分は気にしなくてもいいが、具体的なものを書こうとすればするほどバックカastingが難しくなり、フォアカastingになるので、フォアカastingの部分は基本計画との整合性が出てくる。

各チームで具体的なことを勉強して、チームのことを見直すことが出来るけど、全部持ち寄って策定するのは大変。

2003年のこのアジェンダを作った者としては、P会議がこのアジェンダを灯台のような、目標にしていだいて、自分たちが何をしているのか(の指標)。目標は変わってもいいが、とにかく環境の活動は「できることから始めよう」が「できることだけやろう」になりがちで、そうでなくて、私たちが目指しているのはもっとずっと先の高い山の上なんだということを会員の皆さんに思い出していただくには、見直しをするのは意義があると思う。

2003年当時は、いろいろ考えて長野市の環境ビジョンを作成した。掲載されているプロジェクトも随分変わっている。目指すもの自体も見直したりして、プロジェクトも休止しているものも、違う形で統廃合して何年までにどのようなものを目指すのか、数値目標も含めて議論していけたら。

「アジェンダ21ながの」の8Pで、基本条例から枝分かれして基本計画とアジェンダがある。今回基本計画が24年から変わる。

基本計画と並行していてもいいのか。

それはいい。基本計画は5年前に見直しをして「温暖化対策」を入れた。アジェンダの10Pには温暖化対策は載っていない。だから見直しは必要だろうが、第2次の基本計画がこれから策定に入るので、どういう方向になるか見えない。来年度であればある程度の姿は見えてくるか。しかし、長野市の環境部職員はこの長野市の環境ビジョンを知らないという実態もある。

随分当初に比べれば、ご理解を頂いていると思うが、確かにその辺の人に聞いても、P会議のことは知っていても、何をしているのか分からない人はいると思うが、環境部の人は・・・

一番問題は、チームの人がこれを目標にやっているんだと認識しているかどうか。市からお金が出ているのも、このアジェンダをすすめていただいているということなので、それをしっかり認識していただく必要がある。

何度か研修をやっているが、人は入れ替わるし、目先のことと現実は違うということもある。

研修会をやる必要があるか。

第2次行動計画策定はかなり大変になると思う。

最終的に、冊子にできるぐらいにしないと。

今のP会議の人数で行動計画を決めていいのか

アジェンダ P67に2003年に策定作業に関わったメンバーが載っている。最低このくらいはないと。事業者がどのくらいでているか分からないが。

見直すにしても、どんな人たちを集めてやるかも考えないと。中だけでやるということにはならない。

今の段階で幹事会としては何をしておくべきか。とりあえず、今の会員にアジェンダについて認識を新たにしておいてもらうことは必要だが。それにはどうすればいいか。

そもそも「アジェンダで何？」というところから何かの広報を小出しにしていて、どっかで勉強会をするか。

会員になったときに、研修会をするというのも必要ではないか。

今どんどん新しい人が入ってるが、そういうことを話さずにきている。

1年に1回、入った年は必ず1回受講、そのあとは2年ごととか研修をうけるようにすれば。

新規入会者研修と入会2年目研修と、それ以上の研修とか。

そういう風に決めてしまうと、楽しくなくなるかも。いきなり規定するのは不安。どういうP会議に持ってくるか。

あくまで主体的にやらせてもらうから。総会のお話するのはいい。

チームのミーティングのときに来てもらって話してもらうのはどうか。これについて皆で話しあうことは必要だ。

ホントはそれが一番いい。(研修会に)来てもらうといってもなかなかこない。

チームのメンバーに研修担当を作ってもらって、その人に研修するのは。

新人のための研修は？新しい人が集まるのは意義があると思う。

リーダーが分かれば、リーダーから話してもらえば。

研修はリーダーからやるべきではないか。

チームリーダーが認識を新たにすることは良いことだと思う。では、新入会員とリーダーの研修会ですが、いつごろ開きますか。

11月27日の昼間

チームリーダーとお話する機会がなくなってしまったので、最初P会議のことを学習して、あとチームリーダーとお話をする時間にするか。

メルマガでお知らせするか。(クイズ形式で)

研修会資料は前にやった研修会の資料を11月の幹事会でお出しする。

講師は高木先生、進行は渡辺さんでいいか。承認

アジェンダの見直しはどうするかという話からこの話しが始まったが、これ以上決めておくことがあるか。

基本計画もまだこれからですので、今はこれでよいかと。

2003年のアジェンダ策定のときは、約3年かかっている。もし24年からアジェンダの見直しをすると、基本計画が5年計画なので、行動計画が出来たところにはあと2年位しかないことになる。そのあたりのスケジュールも考慮しながら考えていただきたい。

## 8 公益法人化研究のプロジェクト立ち上げについて

### 【弓場代表から資料について説明】

- ・ 実際にわれわれが公益法人化できるとして、何年かかるか。  
社団法人であればやろうとおもえばそんなにかからない。ただ、だれにメンバーになってもらうか。企業がどのくらいまきこめるか。今の団体会員会費5000円というのは見直さなければいけない。  
全体の大枠を決めるのはすぐ出来るが、詳細を決めるのは時間がかかり、決まったあとは早くすすむというイメージか。  
今の会員が社員になってもらうのはいいと思うが、より広く企業に呼びかけていくのは大変だと思う。  
前にあった役員会はどうなったか。  
全て無くなった。顧問にもなってくれなかったし。  
研究を始めるのはいいのではないか。  
アジェンダの見直しと同時か。  
アジェンダがどう見直されようと、それを推進していく仕組みづくり。  
人材的な問題で、チームを動かしていくのも大変なので。  
では、最初は少人数で研究をスタートする。

## 9 プロジェクトチーム活動報告

特になし

## 10 新会員承認について

- ・ 信州大学工学部の学生の保険についてはどうなっているか。  
団体会員ということで、代表者の錦織先生は対象になっているが、学生はボランティア保険は対象外ということで錦織先生には伝えてある。  
学生は課外活動をする場合、大学で保険に入っているので、大丈夫。
- ・ 信州大学工学部は法人格がない。総会で決議に参加するときは、どういうふうになるのか。  
みどりの市民は高木先生が投票している。  
みどりの市民はNPO法人だからいいが。  
錦織さんが信大工学部として投票権を持っているかどうか決められないということか。  
厳密には、今のところはいいいが、社団法人化すれば問題になってくると思う。  
今までは工学部の環境ISO学生委員会が団体登録していて、代表が学生で委員会として投票権を持っていた。  
社団法人化するときには、信州大学として入っていただければ。